

## 本年度の研究テーマ一覧

テ	マ
1	登校拒否生徒のカウンセリングはいかにあるべきか
2	チームカウンセリングによる問題生徒の矯正指導
3	学年主任として、非行グループに対しての診断と指導
4	登校拒否の徴候のある生徒の指導
5	担任教師になじめない生徒
6	学習意欲に欠ける生徒の指導
7	かん黙児への教育相談のすすめ方
8	身勝手に攻撃的な言動が多く、集団生活になじめない生徒の指導
9	怠学より、登校拒否に移行しつつあるA男の指導をどのようにしたらよいか
10	ツッパリの傾向にある女生徒の指導をどうしたらよいか
11	進路選択で種々迷っている生徒の指導
12	登校拒否（怠学）傾向にある生徒の指導
13	ヒステリー発作をおこしたK子のカウンセリング
14	問題行動の多い生徒に対する行動カウンセリングの進め方
15	中学校において集団活動に参加できない生徒とのレポートの深化とカウンセリング
16	登校を拒否している生徒の指導
17	学校集団をはなれて、ツッパリの行動に走りつつある女生徒の指導
18	校則に反抗的な態度を示している生徒へのとりくみ
19	複雑、多様化する生徒指導上の諸問題を解決するためのたてをどうすればよいか
20	非行（窃盗・家出）を繰り返す生徒へのかかわり方
21	自閉的傾向の強い子の指導
22	無関心家庭における子女の立ち直りの指導にみる服装と頭髪問題
23	基本的な生活習慣が極度に欠けている生徒の指導について
24	社会逃避的な問題行動のある生徒への教育相談のかかわりをどうしたらよいか
25	校則違反を繰り返す生徒の指導にどのように取り組んだらよいか
26	登校拒否生徒の指導
27	悪条件の中で学校生活を続けさせる生徒の指導はどうあるべきか—B子の場合—
28	K子の学校適応回復と成長促進
29	断続的に出欠席をくり返す（登校拒否症状）生徒をどのようににカウンセリングしたらよいか
30	不登校生徒の指導
31	問題行動を示すA子とのかかわり
32	問題傾向をもつ生徒の早期発見と早期治療—養護教諭の立場から—

それを毎日でも実施することができ、その結果がそのまま治療の推移を示すという極めてユニークな心理療法である。その方法・解釈などについて概論的に学ぶ。

### ② 中期

・家族カウンセリングの進め方

「家庭なき家族の時代」といわれ、子供の問題の背景としての家族の病理性が重視されているが、家族関係の改善をねらっての家族カウンセリングをどのように進めたらよいか。立教大学の平木典子教授を講師に研修する。

・思春期の精神医学

思春期は発達を続ける子供達が、はじめて経験する「疾風怒涛の時代」であり、不安や葛藤が生じやすく、極

めて、不安定な精神状態にある。その精神生活を福島医大の八島祐子助教を講師に研修する。

・行動療法の基本と実際

日本に行動療法が導入されて二十年度の歳月が経過しており、行動理論や学習理論を背景とする心理療法として定着している。その理論的な基礎と系統的脱感作法など実際の技法について研修する。

・思春期の生理と心理

思春期は、「からだ」の変化の速度が大きくなり、「こころ」がそれに追従できなくなり、心身相関がくずれ、種々の問題に発展することが多い。思春期の心と体の発達について、心身一如の立場に立って研修する。

### ③ 後期

・自律訓練法とバイオフィードバックの実践

教育相談一次研修の自律訓練法の基礎の上に立って、身についた技法にするための研修をすると共に、自分の気づかない生理的变化に気づくことで治療しようとするいわゆるバイオフィードバックについても学ぶ。不安を背景とする神経症的な問題行動の治療として注目される技法である。

・カウンセリング実習

この講座の重要な柱の一つであり、実際にカウンセリングを体験し、互いに観察し協議や所員のスーパービジョンによって実践的な研修をする。

て学ぶことの重要さは勿論であるが、それにも増して大事なことは理論や技法を実際に対象児の問題改善にどう生かすかで、それを実践的に研修する。

### 三 まとめ

今回は、本年度から実施される学校カウンセラー養成講座の概略について紹介したが、本講座は、教育相談二次講座を受講したあとで受けるのが望ましく、講座内容がそれを前提として組み立てられている。既に前期が終了しているが、受講者の反省からも前記のことが感じられる。学校カウンセラー養成講座が実施されたことで、長年の懸案であった初級から上級までの一貫した教育相談講座の体系化ははかれたのであるが、教育相談技術は日々みがかねなければならないものであり、理論、技法共に研究を重ねれば重ねる程奥深く、究極においては人間の尊厳や生命の尊重とかかわってくる。従って、教育相談講座全体のより充実発展のための研究は勿論であるが、受講された先生方も、校内での研究、研修のみにとどまらず、多くの場を利用してより深い研究を重ねられるようお願いしたいし、それをもとに同僚の連携、相互理解に基づく生徒指導を指向していただきたい。スーパーバイザーやコンサルタントは、仲間から招かれることで役目が果せるものであることを忘れてはならない。